

京都府農林水産技術センター生物資源研究センター

令和2年度成績報告会 短報発表要旨

(1) 花菜根こぶ病の精度の高い診断技術に基づく総合防除技術の開発

応用研究部 主任研究員 北澤勝好

花菜根こぶ病は防除が難しいため、農薬やそれ以外の防除法で総合的に防除する必要がある。新たな防除法として、有機酸資材の土壌処理による発病抑制効果をポット試験で確認したが、今回、ほ場でも同様の結果を得られた。

(2) 収穫可能な期間が長くウイルス抵抗性を持つ8月獲り丹波黒大豆系エダマメを育成中

応用研究部 技師 内藤一平

京都府特産の黒大豆エダマメ『京 夏ずきん』は莢の黄化が早いいため、収穫可能な期間が短い。また、ダイズモザイクウイルス(SMV)抵抗性を持たず、感染による生育・着莢不良によって収量・品質が低下する。この問題に対して当センターでは、①収穫可能な期間が長く、②SMV抵抗性を持つ③良食味である品種の育成に取り組んできた。今年度は新品種候補系統の選抜に取り組んだのでその概要を報告する。

(3) 酒造好適米「祝」に代わる京都府オリジナル酒米新品種の育成

応用研究部 主任研究員 静川幸明

京都府の酒造好適米「祝」は、高品質な日本酒を醸造できるため、メーカーからの評価が高い。しかし、倒伏しやすく収量が低い、心白が大きいために醸造過程で米が割れ易いことが問題となっている。これらを解決するため、当センターでは「祝」と他の酒米を交配し、新品種育成に取り組み、選抜を行ってきた。本報告では、これまでの育成経過と選抜した有望2系統についての栽培特性や酒造適性等について概要を報告する。

(4) 新しい紫、赤色の小カブ品種を育成中

応用研究部 主任研究員 伊藤寿美子

食生活の変化で、近年は、煮炊き用の野菜よりサラダなどの生食や電子レンジで調理できる野菜に人気がある。そこで、京の伝統野菜である聖護院カブ、舞鶴カブ、鶯菜等のカブに根が赤色や形のきれいなカブ品種を交配して、根色が赤や紫で彩りよく、皮が柔らかく辛みが少ない小カブ新品種の育成に取り組んでいる。

(5) 赤い熟果生産に適した伏見とうがらし新品種の育成—果型、収量性及び食味の評価—

応用研究部 副主査 鴨志田徹也

京都府産の伏見とうがらしの赤い熟果は、ホテル等の業務需要を中心に取引されているが、既存の品種で熟果を栽培すると、樹勢の低下やしおれ果の発生により出荷量が低下する。そこで、これらの問題点を改善したF1新品種の育成に取り組んでいる。当センターでは、新品種候補系統の果型、熟果の収量性及び食味を評価し、有望な系統を選抜したので、その経過を報告する。